

筑前国分寺や大宰府政庁の瓦を焼いた窯跡。

8世紀前半、聖武天皇の時代は、災害や争乱、天然痘などの疫病が頻発していた。天皇は仏にすがる思いで全国に国分寺を創建し、総国分寺として東大寺を造営した。筑前国分寺はその時に作られた国分寺の一つで、現在は七重塔の礎石と講堂跡、寺を囲む塀などが一部残っている。

筑前国分寺にあった七重塔の10分の1の模型がある。

菅原道真の詩にも登場する日本一古い梵鐘がある。

筑前国分寺跡

大宰府政庁跡

おすすめコース

太宰府天満宮

学問の神様、菅原道真公を祀る天満宮の総本社。梅の木は約200種6000本あり2月中旬に見頃を迎える。

名物梅ヶ枝餅を食べ歩きする人が多い。

別名苔寺、紅葉が美しい。

散策メモ

845年に京都で生まれた菅原道真は、幼少期から文才にたけ神童と呼ばれていた。若干26才で最高国家試験「文章得業生(もんじょうとくごうじょう)」に合格すると、驚異的な出世を重ねていく。55才で右大臣(政界のNo.2)に任命されると、周囲からの妬み嫉みは凄まじく、左大臣藤原時平から無実の罪を着せられ筑前国太宰府に左遷されてしまう。閑職に追いやられた道真は失意のまま2年で亡くなり、現在の太宰府天満宮がある場所に埋葬された。没後、京都では天変地異が多発し「道真の祟りでは」と恐れた朝廷は、道真の無実を証明し、天神様として祀ることで天変地異(道真の祟り)を鎮めようとした。墓所が天満宮となり、菅原道真が神様となったのはそのためである。



太宰府map

この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)及び数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地名情報)を使用した。(承認番号 平30情使、第1158号)